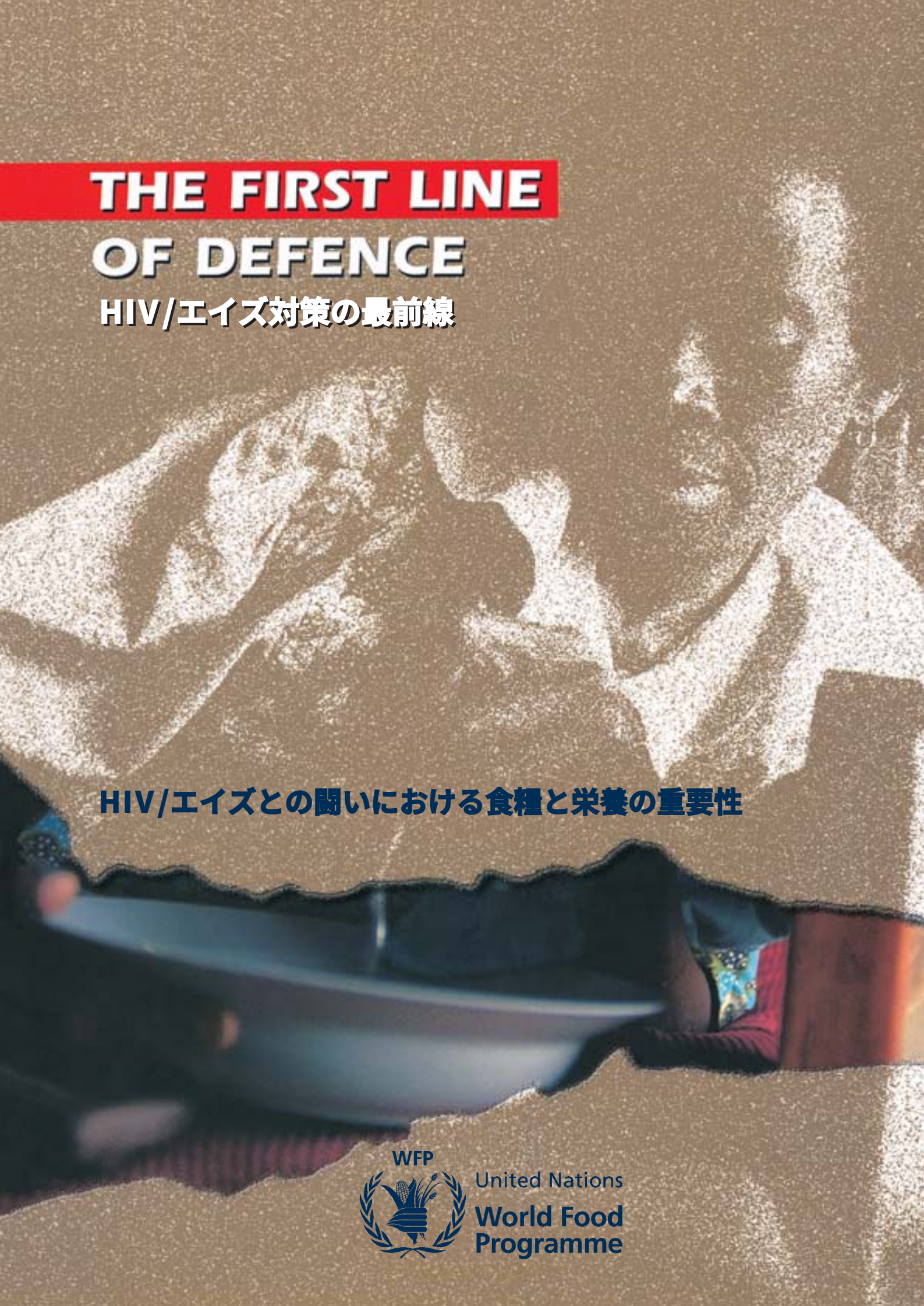
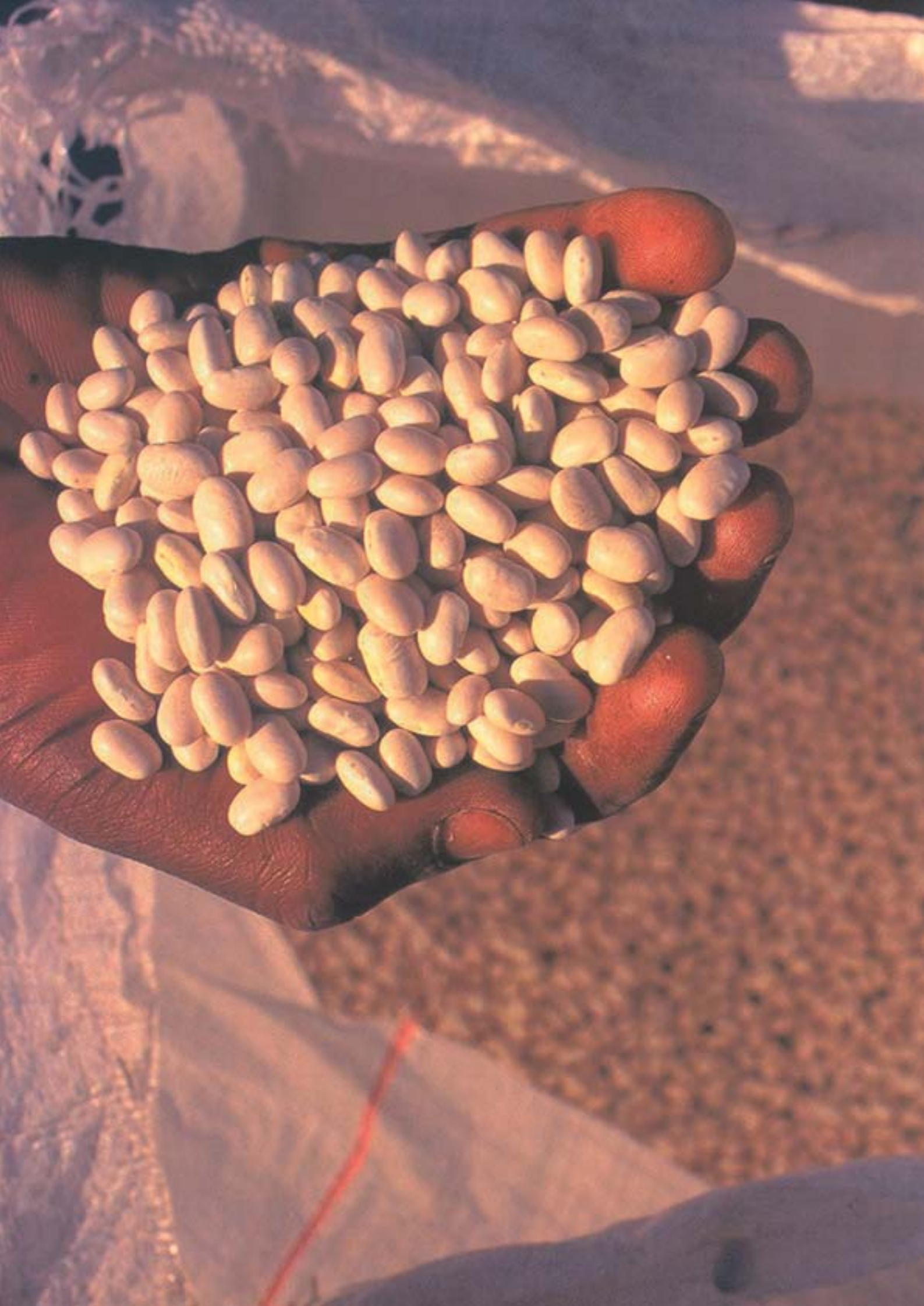
THE FIRST LINE OF DEFENCE

HIV/エイズ対策の最前線



HIV/エイズとの闘いにおける食糧と栄養の重要性

WFP
United Nations
World Food Programme



HIV/エイズ対策の最前線

「マラウイでHIVに感染している女性たちの
グループに会いました。
HIV/エイズを患う人々やその他のグループに
いつも訊くことを、このときも尋ねてみました。
『あなた方にとって最も必要なものは何ですか』と。
彼女たちは明確に口をそろえて
次のように答えました。
『食べ物です。』

医療でも、治療薬でも、またHIV/エイズ感染者に
対する偏見からの解放でもなく
食糧が最優先だったのです。」

国連合同エイズ計画（UNAIDS）事務局長
ピーター・ピオット

バージニア・マラムバに、彼女にとって食糧がどれほど大きな意味を持っているのか尋ねてみましょう。バージニアは、ジンバブエの中央マショナランド州マザラバニ地区に住む未亡人です。夫のアンドルーは、家族に事実上何も残さず、先ごろエイズで死亡しました。現在、バージニアと二人の子どもは、国連世界食糧計画（WFP）の緊急食糧援助に頼って生活しています。

「WFPの食糧援助がなかったら、正直言ってどうなっていたかわかりません。現在は少なくとも家族の面倒をみることができます。以前は1日1食で、それもたいていお粥だけでしたが、今では食事を2回食べられます」と彼女は言います。

彼女の居住地区でWFPが食糧配給を始めるまで、彼女は時折、近所の農家で出来高払いの仕事をしていたと言います。

バージニアさん母娘

仕事がないときは食べ物を恵んでもらうしかありませんでした。近所の人々から食糧を分けてもらえないときには、野生のオクラを採って食べていました。

彼女の飢えは、まじめに働かなかったせいではありません。彼女は畑でトウモロコシと野菜を育てていました。しかし、天候不良と肥料不足のため、どちらもほとんど実りませんでした。トウモロコシの収穫量はわずか20kgで、これだけでは家族の1カ月分の食糧にもなりません。そのため、次の収穫期まで食糧援助が必要になります。

「私の唯一の希望は、WFPが食糧の配給を続けてくれることです」と、バージニアは言います。

忘れ去られた地域

HIV/エイズ感染の急速な拡大は、非常に深刻な地球規模の問題です。無差別に死をもたらすエイズは、世界中で何百万もの命を奪ってきました。富める者も貧しい者も、この恐ろしいウイルスの前では無力でした。あらゆる人種、そして、あらゆる年齢層が脅威にさらされています。

しかし、世間から忘れ去られた地域では、バージニアのような境遇にある人々が何百万人もおり、食糧不足や不安定な供給が日々の現実であり、HIV/エイズ感染は特にその苦しみを深刻にしています。

国民の空腹を満たすことさえ困難な貧しい国々にとって、このような深刻な社会危機は、自国のインフラや労働力、経済に対する重大な脅威となっています。これらの地域では、HIV/エイズ感染の拡大と食糧の不安定供給が相まって、希望を失わせ、開発を遅らせ、そして人々の自活能力を弱めています。

UNICEF/Jeremy Horner

WFPは、HIV/エイズとの地球規模の闘いの最前線にいます。すでに、HIV感染率が最も高い25カ国のうち21カ国で食糧援助を行っており、独自の立場からこの感染症と現場で闘っています。飢餓がHIV/エイズと組み合わさると、地域社会にどれほど悲惨な影響をもたらすかということは、最近明らかになり始めたばかりです。孤児の急増などの影響が表れるのは何年も先になるでしょう。しかし、はっきりしているのは、HIV/エイズとの闘いで少しでも前進するためには食糧援助が欠かせないということです。

まず、最初に必要なもの

「現代のさまざまな治療法の効果を引き出すためには、十分な栄養状態が不可欠です。親の余命を延ばし、彼らがあと数週間、数カ月間、もしかすると数年間、働いたり家族と過ごしたりするための貴重な時間を持つには、十分な食糧が欠かせません。彼らに病気の完治への望みを与えることはできないかもしれませんが、時間を与えることはできます。」

WFP事務局長　ジェームズ・T・モリス

世界中の貧しい人々にとって、食糧は常に最初に必要とされるものです。HIV/エイズの脅威にさらされている場合はなおさらです。良好な栄養状態は、この病気の生命にかかわる影響を防ぐための予防の最前線です。栄養価の高い食事は、余命を延ばす薬剤療法の効果には及ばないものの、HIV感染者がより健康に、より長く生きるための一助となります。その間、教師は教育を、農民は農作業を、親は育児をそれぞれ続けることができます。しかし、適切に栄養を摂取しなければ、病気の進行は速まり、治療も困難となります。

WFP/Vanessa Vick

9人の子を持つスワジランドの47歳の母親、サンディー・ジナのケースを見てみましょう。彼女は今年初め、HIV検査で陽性と診断されました。夫は2年前にエイズで死亡しており、彼女は4人の幼い子どもを一人で育てています。サンディーは昨年の8月から、WFPの援助実施パートナーである「ルター派開発サービス」を通じて、WFPの食糧援助を受けています。サンディーによれば、食糧援助は彼女自身の健康を大いに改善しただけでなく、干ばつによる三季連続の収穫不良の影響を受けていた彼女の家族にとっても大きな助けになりました。「HIV/エイズ検査を受けるよう勧めてくれたのは長女です。彼女のアドバイスのおかげで私は、HIV感染者がどのような栄養素をとるべきか今ではわかっています」と、サンディーは言います。

HIV/エイズがもたらす苦しみは、感染者本人だけのものではありません。HIV/エイズは、一家の収入を減らし、資産や貯蓄をなくしてしまうこともあります。多くのHIV/エイズの患者は、治療という選択肢を持っていません。日々の暮らしもままならない人々にとって、抗レトロウイルス薬は手の届かない高価な品なのです。たとえ薬剤療法を受けられたとしても、その効果は栄養状態に左右されます。一家の資産が減り、介護の必要性が高まるにつれて、家族――とりわけ子どもたち――は、ますます高いリスクにさらされます。子どもたちは、収入の穴を埋め、病人の介護を手伝うために、学校を辞めなければならないことが往々にしてあります。また、エイズ患者への偏見は、家族の困難な状態に追い討ちをかけるだけです。HIVに感染していることで家の立ち退きや離婚を迫られたり、職をなくしたりする可能性があるのです。

この病気が原因で孤児になる子どもが増えることによって、多くの家族に過度の負担がかかっています。子どもたちは、親が死亡するずっと前から、家族の慢性的な病気の影響を受けます。彼らはしばしば教育の機会を奪われ、幼くして大人と同等の責任を担うことを余儀なくされます。ときには両親の死後、一家の柱になることもあります。これらの子どもたちは、食糧を自ら確保するための農業の知識をほとんど、あるいはまったく持ち合わせておらず、基本的な保健サービスの恩恵も最小限です。

闘うために必要なエネルギー

WFPは、食糧援助や健康・教育に関する活動を通じて、HIV/エイズの影響を受けている家族の生き残りへのより良いチャンスを提供しています。基本的な食糧の援助を通じて、栄養不良という当面の問題に取り組むとともに、家族が子どもを学校に送り続けられるよう後押ししているのです。

孤児や危険にさらされている子どもたちに対するWFPの支援の一例として、モザンビークの中央地域――成人のHIV感染率が国内で最も高い地域――での取り組みがあります。州都シモイオは、港湾都市ベイラとジンバブエを結ぶ幹線道路――トラックの主要輸送ルート――沿いに位置しています。HIVの拡大に人の移動がもたらす影響を考えると、トラック運転手がHIV/エイズの拡大の大きな要因となっています。

シモイオでは毎日15人の子どもがエイズで親を亡くしています。

「クバトシラナ」(Kubatsirana)という組織が大きな成果をあげています。慢性的な疾患に苦しむ病人を抱えた家族は、在宅介護プログラムを通じて、基本的なニーズを満たすのに十分なWFPの食糧援助を受け取っており、お金と時間の余裕を教育などに費やしています。

また、「クバトシラナ」が実施している職業訓練プログラムを通じて、孤児たちは技能訓練や教育を受けることができ、将来自らの生計を立てられるようになります。

食糧援助は、HIV/エイズの最も深刻な影響を緩和するための鍵となります。適切な食事と栄養は、HIV感染者の身体をむしばみ体重を減少させ、体の抵抗力を弱める結果となる日和見感染を予防する一助になります。HIV/エイズ感染が拡がる地域でWFPがしばしば提供しているトウモロコシと大豆の混合粉などの食品は、調理が簡単で、食べやすく消化しやすいという利点があります。病人の介護にかなりの時間をとられる家庭にとって、これはとくに重要な点です。これらの食品は、カロリーやたんぱく質を多く含んでいるうえに、HIV/エイズ患者にとって特に大切なビタミンやミネラルも補強されています。

WFP/Tom Haskell

実践的なパートナーシップ

WFPは、NGOや他の国連機関、各国政府と緊密に連携しながら、すべての活動が各国のHIV/エイズ対策と整合性を持ち、なおかつ、最も必要とされるところに援助食糧が届くよう配慮しています。また、世界各地のパートナーと協力して、食糧の配給だけでなくカウンセリングや栄養教育、技能訓練をも提供しています。

ウガンダにおいてWFPは、在宅介護の分野でのパートナーシップに取り組んでいます。イタリアのボランティア団体「国際奉仕のためのボランティア協会（AVSI）」、および「リーチアウト」と呼ばれるプロジェクトを通じて、カンパラのスラム街に住むHIV/エイズ感染者たちは食糧やその他の基本的なサービスを受けています。

「リーチアウト・プロジェクト」は、エイズで夫をなくした未亡人を対象にしたプロジェクトです。ほとんど教育を受けた経験もなく、これといった技能を持たない彼女たちは、貧困生活を余儀なくされています。しかし、食糧援助は、彼女たちに大きなチャンスをもたらします。受益者が受け取るのは、トウモロコシ、豆類、トウモロコシと大豆の混合粉、それに植物油です。

「リーチアウト・プロジェクト」の受益者の大半は女性ですが、ルワンガ・ワハブ（20歳）のように少数の若い男性もその対象となっています。「彼らが私の家を訪問したとき、私はごくわずかな距離さえ歩けませんでした。でも今では、こんな長い道のりを歩けるようになりました。」食糧が彼の生活にもたらした効果について尋ねられると、ルワンガはこう答えました。「自分を見ると、変わったということがわかります。豆を料理したり、ときにはコーンミールやお粥を食べたりしています。これらの食糧は私に変化をもたらしてくれています。」具体的にどのような「変化」なのかという問いに対して、彼は次のように答えます。「悪い状況にはないと思えることです。私は飢えから解放されましたし、食糧は私の体づくりに役立っています。」

結核予防のための共同作業

WFPの食糧援助の革新的な活用方法として、レソトやウガンダで実施されている結核治療・予防プログラムに対する支援があります。結核は世界中で健康上の深刻な問題になっており、農村部と都市部の双方で主に貧しい人々を苦しめています。世界中で何千万もの人がこの病気を患っていますが、結核はHIV/エイズ患者にとって最大の死亡原因の一つでもあります。カンボジアでは、HIV/エイズが急速に拡大していますが、結核の感染率も東南アジアで最高レベルです。

結核の予防はHIV感染者にとって最も重要なことです。HIV陽性者が結核にかかる危険性は健康な人の約20倍、エイズ患者に至っては100倍です。

カンボジアでは、国立結核センターと、日本の国際協力機構、世界保健機関（WHO）、地元のNGO、およびWFPとの間の緊密な連携が功を奏し、強力なDOTS（直接監視下短期療法）プ

ログラムが実施され、成功をおさめています。WFPは1994年から、全国結核対策プログラムを通じて、結核の早期発見と治療体制の向上を支援してきました。この過程で、WFPの食糧援助が果たした役割は極めて大きいと言えます。

多くの結核患者の身体は衰弱しています。食糧援助は、患者の体重を増やし、結核菌に抵抗するための栄養源として提供されています。さらに、病気が原因で一家の収入が減ることがあるため、援助食糧は介護や治療にかかる費用を負担する役目をも担っています。

プノンペンの衣料工場で働くカン・ピセイ（29歳）の場合も、まさにそうでした。彼女はプノンペンの路上でココナッツ売りをしている夫とともに、家賃や二人の子どもの養育費を稼ぐのに精一杯でした。そのようなとき、彼女は結核の症状――激しい咳と高熱――に見舞われたのです。彼女は職を失うのをおそれて治療を先延ばしにしていましたが、健康状態が悪化してきたため、2カ月間のDOTS治療を受けるようになりました。その結果、上司である工場長は、彼女を解雇しました。

ピセイにとって幸いなことに、医療センターの所長が、彼女がさらに6カ月間、治療を受けるために夫とともにセンターに留まることを許可してくれました。彼女はセンターで、WFPから月に15kgの米、2缶の魚、および2リットルの植物油の食糧配給を受け取っています。この配給とDOTS治療のおかげで健康は徐々に回復しています。彼女は治療が終わり次第、もっとよい仕事を見つけられるだろうと確信しています。

カンボジアの患者にとって食糧配給は、薬を受け取り、結核治療を受け続ける強力なインセンティブとなっています。食糧配給は、彼らが治療のために必要な2カ月間の入院を受け入れ、退院後も完治するまで通院し続けることを後押しする役目を果たしているのです。米と植物油、魚の缶詰、それに時折加えられるトウモロコシと大豆の混合粉からなる毎月の配給は、結核患者の死亡率の低下に役立つ時もあります。患者が治療を完了しなかったら、薬剤耐性を持つ結核菌が生まれて、カンボジアだけでなく全世界の人々の健康に甚大な被害をもたらしかねないのです。

予防の促進

WFPは、エイズがもたらす現実の苦しみの緩和だけでなく、予防の促進のためにも食糧援助を活用したいと考え、そのための対策を立ててきました。

飢餓は、発生地がどこであれ、人々を危険な行動に走らせるおそれがあります。家庭やコミュニティで食糧が安定的に供給されるようにすることは、HIVの一つの予防策です。大勢の人が難民・国内避難民キャンプでひしめきあって暮らさざるをえないような緊急事態では、他の予防策が必要になります。住民の強制移住やレイプ、占領軍の存在、絶望的な状況におかれた女性、そして危険を伴う性行動などが相まって、そうしたキャンプをHIV/エイズ感染拡大の温床にするからです。

難民、とりわけ女性は、兵士や民間人――場合によっては本来彼女たちを守るために派遣された人々を含む――からの性的暴力・虐待を極めて受けやすい存在です。人道支援のスタッフには、難民の生命、健康、教育、情報に対する基本的人権を守る責任があります。この責任には、難民の自己防衛を支援することによってHIVに感染する危険性を減らすことも含まれます。

WFP/Shelley Lombard

WFPとそのパートナーは、とりわけ緊急事態において、受益者に予防のためのメッセージを伝えるさまざまな方法を模索しています。たとえばザンビアでは、いくつかのグループを訓練して、劇やダンス、音楽を通じてHIVの予防メッセージを伝える「シアター・フォー・コミュニティ・アクション」を実施しています。受益者が食糧の配給を待っている間に、これらのグループが劇やダンス、音楽を披露するのです。

WFPは、国連難民高等弁務官事務所（UNHCR）や国連児童基金（UNICEF）と協力して、難民キャンプ内でHIV/エイズにすでに感染している人々、あるいは感染の脅威にさらされている人々に対する影響を緩和することをめざしています。そのため、女性たちが難民キャンプで配給を待つ間に、リプロダクティブ・ヘルス（性と生殖に関する健康）やHIV/エイズ予防に関する教育訓練の場に参加できるようにしています。

闘いはまだ始まったばかり

この極めて有害なウイルスが根絶されるまで、国際社会はそれと闘う方法を見つけていかなければなりません。死亡率は今なお上昇していますが、HIV/エイズの最悪の影響はまだ顕在化していません。WFPは、人々を危険にさらしている事情が何であれ、世界の飢えに苦しむ人々の食卓に食糧を送り続ける方針です。

WFPとUNAIDSは、特にアフリカ、東南アジア、カリブ海諸国において、何百万人もの命を救うために協力関係を強めています。これら二つの機関の活動は、とりわけ妊婦と孤児に重点を置いており、食糧の安定供給がHIV/エイズの予防に関する取り組みに統合されることを確認しました。

HIV/エイズによってもたらされる患者の体調不良、偏見、生活不安と闘っている家族にとって、WFPの食糧援助は、今日一日の生きるための糧となるだけでなく未来への希望をも与えてくれるものなのです。

国連世界食糧計画（WFP）日本事務所
〒220-0012　横浜市西区みなとみらい1-1-1
パシフィコ横浜６階
Tel: 045-221-2510
Fax: 045-221-2511
ホームページ　www.wfp.or.jp

WFP PUBLIC AFFAIRS SERVICE
RESOURCES DEPARTMENT
For more detailed information visit our website:
www.wfp.org

WFP
United Nations
World Food Programme